

北上して南西諸島は 500mb まで十分湿っているから、寒気が南下して温度傾度が増大し、南西諸島方面の南西風が強まると上空の空気は北上して、西日本に過飽和域を形成するのである。

以上の事実は第Ⅱ報第3図 b, c にも現れていて、700mb ではかなり乾燥しているのに 500mb では過飽和になっているのが各所にみられるし、また我々が日常使用している断熱図にもしばしばみられることである。

下層の飽和もこれと同様で、寒気の南下するにつれて南ないし南西風が強まって気層を北上させ、ついに気層全体が飽和になるのである。第4図に鹿児島島の 700mb の露点と風、および名瀬の 850mb, 700mb の露点の変化を示す。これによると南風のとき、しかも30ノットをこえる場合に鹿児島島の 700mb の露点は名瀬の 700mb

の露点より高くなっているのがよく現れている。これは 700mb より下層の空気が北上するにつれて上昇したことを物語っている。

4. むすび

以上のことから、

1. 満州方面にある寒気の南下に伴なって西日本や南西諸島方面では温度傾度が増大し南又は南西風が強まる。

2. 南風は緯度効果だけで上昇成分をもっているのだから北上するにつれて気層は下層まで飽和になり；氷点下では過飽和になる。この現象は気流系に収束がある場合にはさらに増強される。

ということができる。

551. 509. 323: 551. 509. 33

選別法による 1963 年夏の気温予想

荒 川 秀 俊*

筆者はここ二年前から、仙台及び札幌管区气象台と協力して、選別法による夏の気温長期予想を実施しつつある。1962年11月までの資料を用いて、1963年夏の東北地方の平均気温は次の如くに予想された。

年 月	予 想 値	1947~1962 年に比して	30 年 平 均 比 に して
1963年 6 月	16.3°C	-1.3°C	-1.5°C
年 7 月	22.3°C	-0.1°C	+0.3°C
年 8 月	25.1°C	+1.3°C	+1.4°C

また1964年1月までの資料を用いて、1963年夏の北海道の平均気温は次の如くに予想された。

	年 月	予 想 値	1947~1962 年に比して
札 幌	1963年 6 月	16.6°C	(+1.0°C)
	年 7 月	20.7°C	(+0.3°C)
	年 8 月	20.5°C	(-1.3°C)
北 海 道	1963年 6 月	14.6°C	(+1.0°C)
	年 7 月	18.7°C	(+0.3°C)
	年 8 月	19.7°C	(-0.6°C)

これらの結果は昭和38年2月に開催された長期予報検討会で発表された。

* Hidetoshi Arakawa 気象研究所
—1963年6月17日受理—

関西支部だより

支部役員の一部更新

3月から4月にかけて会員の大巾な移動があり支部役員も一部交替した。新しいメンバーは下記の通りとなった。

支 部 長：藤井 義之

常任理事：中島暢太郎，大西 慶一，股野 宏志，

明戸 謙，喜多村一男

理 事：西本 清吉（近畿），来海 徹一，（中国），
檀上 哲郎（中国），箱田 顕雄，（四国），
菊田 一郎（四国）

1963年7月

(241頁につづく)